

ゆうゆう会に高校生が参加しました

9月24～26日に、大川樟風高校の生徒3名が就労体験のために、東町・門前・郷原・道海島団地・荻島地区のゆうゆう会に参加しました。

ゆうゆう会で参加者の方と交流を図り、レクリエーションを一緒にいき楽しい時間を過ごしました。

参加者の方々も若い方と交流でき、さらに元気をいただきました。



福祉ツイート

～ただ、誰かと一緒にいるということ～

先日、ある地域の居場所にお邪魔したときの出来事。その居場所では、地域の皆さんが各々自身のやりたいことをして過ごされています。トランプをする人、おしゃべりをする人、黙々と折り紙をする人、脳トレをする人……様々なことを実施しておられます。

そこで感じたのは、皆さんとても楽しそう。誰一人「やらされている」「無理やり連れて来られている」方はいらっしゃらないということです。やりたいからやる、楽しいからやる活動は、誰も「やらされて」いません。

持続可能な活動の共通点の一つは自主性・主体性であると感じます。

20名程の方が参加されており、4～5名程で各々が楽しんでいる中、お一人だけぼつんと座って雑誌を読まれていた方を見つけ、お話を伺いました。「皆さんトランプや花札などをして楽しんでいます、〇〇さんも入られませんか？」私は、お一人で寂しそうだと感じ、良かれとの思いでその方をみんなの輪に入れようとしていました。

しかし、その方はこう言われました。「私は、みんなで体操とか、トランプとかはせんでよか。ただ、みんなが居るこの空間におるだけでよか。何もせんでよか。」この言葉を聞いたとき、誰かと一緒に「何か」をすることも大事ですが、ただ誰かと「一緒にいる」ことで満たされることもあるのだと感じました。

同時に、いわゆる支援者目線で、その方の声を聞かず、良かれとの思いでみんなの輪に入れようとするような、ある種のパターナリズム(※1)に陥らないように改めて注意したいと感じた出来事でもありました。

幸せの定義は人それぞれだと思います。誰かと一緒に何かをすることが幸せだと感じる方もいらっしゃる一方で、ただ誰かと一緒にいるということ、それ自体が落ち着くと感じる方もいらっしゃる。やはり一人ひとりのニーズに基づいた対応が大切だと感じる今日この頃です。

(ペンネームY)

(※1)パターナリズム(父権主義):ある人の利益になるとして、本人の意思を問わずに介入・干渉・支援すること。